令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　国語

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア	イ
（思考力、判断力、表現力等） 自分の伝えたいことを、表現や構成を工夫しながら正確に伝えられる文章が書けるようになる。	（知識及び技能） ３年間かけて常用漢字の大体を読めるようなり、また学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で使えるようになる。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・全体的には、物を書くことに抵抗のない生徒が多いが、型にはまった文章を書く生徒が多く、表現や構成の工夫は少ない。ア ・小学校５～６年の漢字の定着に課題がある生徒が多い。イ	・一つの作品の終了ごとに、感想を書かせるなど、日頃から書く機会を増やしていく。ア ・授業で行っている漢字の小テストを繰り返し実施し、必要に応じて再テストや追加の課題を提示する。イ	ア 後期 イ 前期～後期	
第２学年	・作文の内容に具体性をもたせ、相手が理解できる内容を書くことに課題がある。ア ・漢字の読みについては問題がないが、書く能力については定着に課題がある。イ	・相手意識と目的意識を明確にし、推敲を通して文章をより良くする場を設定する。ア ・年間を通して週一度漢字テストを実施、学期に一度漢字コンクールを行う。イ	ア 前期～後期 イ 前期～後期	
第３学年	・目的や意図に応じて構成を工夫して書く力に課題がある。ア ・個人差はあるものの全体を通して漢字を書く能力について課題がある。イ	・２００字作文、批評文を書く活動の中で相手意識と目的意識を踏まえ、構成について交流を行う。ア ・週に一度漢字テストを実施し、必要な生徒には再テストや追加課題を課す。イ	ア 後期 イ 前期～後期	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について ・互いの考えを共有し、助言し合う活動に活用する。 ・発表（個人・グループ）において資料の提示等に活用する。 ・情報の収集をしたうえで文章を書いてまとめる授業に活用する。	**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について** ・授業ごとに授業プリントを作成する。 ・単元の最初に目標や評価、授業の流れについて説明する。 ・振り返りの記述を共有することでより深い学びへと促す。 ・シラバスを活用する。

令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　社会

社会科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
社会的事象の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するとともに、社会に見られる諸問題の解決に向けて生きて働く「概念的な知識」に昇華させることができる。	「社会的な見方・考え方」を働かせながら、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想（選択・判断）したりすることができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	①割合を示した資料やグラフの内容を正確に読み取ったり、必要な情報を取り出したりすることに課題が見られる。ア ②基礎的・基本的な知識は習得しているが、断片的な知識で留まっている生徒も多い。ア ③自分自身の生活感覚で物事を捉えることがあり、一面的な見方となることがある。イ	①ワークシートを作成し、「何のために、何に着目するか」を意識して記入させる。また、小グループや学級全体での共有の場を設定する。 ②「私たちの生活にどのように生かせるか」という視点で単元のまとめを行う。 ③別の視点で捉えている生徒を指名して全体で発表させたり教師から視点を示したりする。	①地理的分野の授業 ②各単元の終わり ③毎回の授業	
第２学年	①資料から必要な情報を取り出せる生徒は多いが、その情報を既存の知識と結び付け、分析し理解するまでには至っていない。ア ②社会にみられる諸問題について、自分事として捉える意識が薄いのが課題である。ア ③社会的な事象同士の、相互の連関について発想することに課題がある。イ	①授業内で、資料の読み取りだけでなく、「そこから何が言えるのか」「なぜそうなると考えられるか」を意識的に考えさせる。ア ②社会問題について授業内で触れ、自分たちの生活とのつながりを考える機会を設ける。ア ③初出の内容を取り上げる際、必ず既存の知識や考え方と結び付けて授業を行う。イ	①地理的・歴史的分野の授業 ②学期ごと１～２回程度 ③毎回の授業	
第３学年	①社会問題について関心の高い生徒が多く、「概念的な知識」も一部の生徒に身に付いているが、基礎的・基本的な知識の習得に課題のある生徒もいる。ア ②社会的な事象同士の関連について、多面的・多角的に考察することに課題がある。イ	①定期考査だけでなく、確認テストなどを実施することを通して、こまめに知識を定着させる動機付けを行う。ア ②授業内で複数の資料の読み取りを行うほか、「なぜそれが起きたのか」を社会的背景や歴史的要因などから考えさせる。イ	①単元ごと１回程度 ②毎回の授業	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について ・資史料の読み取りの際に、画面共有を行うなど、ポイントを分かりやすく提示する。 ・ロイロノートを活用し、意見等を提出させ、全体共有に活用する。また、その意見を踏まえて、個人の振り返りにつなげる。	**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について** ・「持続可能な社会の担い手としてどのような考え方が必要か。自分自身に何ができそうか。」ということを記述させたり、話し合わせたりする。 ・「振り返りシート」を活用し、学習を通した自身の変化に気付かせる。例えば、単元の導入で学習課題（「問い」）を提示して回答を予想させたり、各項の授業後に回答の深まり具合を確かめたりする。 ・実生活との関連を考えさせたり、学習内容を踏まえて社会に見られる諸課題の解決に向けた構想を行わせたりする。

令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　**数学**

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付ける。	数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を身に付ける。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基礎的・基本的な計算は身に付いている生徒が多い。ア ・文章題に苦手意識をもつ生徒が多く、問題から立式することが難しい。イ	・毎時の最初に復習問題を取り入れることで、基本的な知識・技能の習得を図る。 ・小テストを行い、基本的な知識・技能が身に付いているかを図る。 ・単元の終わりに、学んだことをワークシートに記述させ、単元の内容を自分で整理させる。 ・文章題では、立式する前に図や表を活用して全体の見通しをもたせる。	・毎時 ・習熟の程度に応じて ・単元ごと	
第２学年	・基礎的・基本的な計算は身に付いている生徒が多い。ア ・活用問題では、既習事項との結びつきを意識することができていない生徒も見受けられる。イ	・振り返りシートを活用し、生徒の理解度を把握する。 ・小テストを行い、基本的な知識・技能が身に付いているかを図る。 ・単元の終わりに、単元テスト及び活用レポートに取り組ませる。 ・自力解決の際に十分な見通しをもたせる。	・毎時 ・習熟の程度に応じて ・単元ごと ・毎時	
第３学年	・基礎的・基本的な内容理解が十分でない生徒がいる。ア ・文章問題や発展的な課題への苦手意識が強く、考えを数学的に表現することが難しい生徒が多くいる。イ	・振り返りシートを活用し、生徒の理解度を把握する。 ・既習事項の復習、小テストを行い、基本的な知識・技能の習得を図る。 ・説明し合う活動を通して、的確な表現方法を身に付けられるようにする。	・毎時 ・習熟の程度に応じて ・単元ごとに複数回 ・習熟の程度に応じて	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について タブレット端末を活用し、生徒のノートやワークシートを写し、課題解決の過程を全体で共有する。それを基に、授業のねらいに沿って、生徒の考えから練り上げ、考察を深める。 また、Ｄマークコンテンツを活用し、グラフや図形を動かすなどして事象を視覚的に捉え、考察をする。	**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について** 自力解決の前に既習事項との関連を意識させた見通しの時間をとる。また、授業の最初に簡単な小テストを行い、前回までの学習内容を振り返る。 まとめでは、自己評価カードを記入することで本時の学習内容を振り返る。

令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　理科

理科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解する。 ・科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	・自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈する。 ・科学的根拠を基に論理的に表現することができる。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア ・科学的根拠を基に思考・表現する力に課題がある。イ	・既習事項について、毎時間初めに振り返りを行い、繰り返し基本的な概念や原理の定着を図る。 ・実験結果を基に考察できることを話し合い、自分の考えを表現する場や他者の考えを聞く場を設定する。また、単元末に思考の流れを確認し、表現する課題に取り組む。	・随時 ・実験後、単元末	
第２学年	・基本的な概念や原理・法則について、生徒によって定着の差が見られる。ア ・抽象的な概念について、それを用いた思考をする力に個人差が見られる 。イ	・既習事項を比較し、そこから規則性や法則を、振り返りシートやテストを行うことで理解させる。 ・個々の実験結果を、既習事項と原理や法則に結び付けて、思考する場面を設定する。	・随時 ・実験前後	
第３学年	・基本的な概念や原理・法則については理解している生徒が多い。ア ・基礎的な学習内容を結び付け、自然の事物現象を科学的根拠を基に論理的に思考・表現することに課題がある。イ	・基本的な概念や原理・法則を基に発展的に考える課題を多く取り入れる。 ・自然の事物現象においての課題を共有し、実験の見通しを確認・共有する。また、事後に生徒が科学的根拠を基に論理的に説明や表現する機会を設定する。	・随時 ・実験前後	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

１年　インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有
　　電子教科書を利用した学習
２年　インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有
　　電子教科書を利用した学習
３年　インターネットや動画視聴に活用、実験結果等の記録共有
　　電子教科書を利用した学習

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

１年　身の回りの事象から学習内容に結び付け、学習意欲を育む
　　振り返りシートの実施（毎時）、定期テストの振り返り
２年　身近な事象と学習内容を結び付け、学習意欲を育む
　　学習の振り返りシートの実施、定期テストの振り返り
３年　振り返りシートの実施（毎時）、定期テストの振り返り

」令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名 音楽

音楽科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
創意工夫を生かした表現で歌唱するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、積極的に歌唱する力を身に付ける。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	授業中の発言も多く、とても意欲的に取り組み、音楽活動を活発に行うことができる。他者の意見を踏まえて、自分の考えをまとめることに課題がある。イ	生徒が発言しやすいよう、個人で意見を考えた後、グループで話し合い、改めて個人で考え直す活動を入れる。ヒントカードを活用する。	単元ごと	
第２学年	授業に対して積極的に取り組む。しかし、歌唱の際、全体的に声量が出にくいことがある。ア	歌唱の前に、発声練習を重点的に行い、声量を上げることに力を入れる。また、定期的に小グループに分かれて歌の発表をさせることで、課題を見付け、改善していく楽しさを感じさせる。	毎時 発表は月１回程度	
第３学年	授業に積極的で真剣に取り組んでいる。声量が出にくい。ア	パート練習では、振り返りを基にリーダーが中心となって本時の課題を決め、生徒自身で目標を立てる。	毎時	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について タブレット端末を活用し、歌唱や合唱の録音・録画を撮り、自ら課題を発見し、改善できるようにする。また、タブレット端末を通して成果を全体で共有する。	**■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について** 振り返りカードを用い、授業ごとに目標を明確に示すとともに、成果や改善点を生徒自ら考え、次時につなげる。また、授業の終末では、本時の振り返りやまとめをし、次時の授業内容を伝えることにより、見通しをもてるようにする。

令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　美術

美術科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	主題を生み出し豊かに発想し、構想を練ったり、美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	・基礎的なデッサンや観察に課題がある。 ア ・基礎的な表現技法において、技量の個人差が大きい。 ア イ ・画材等の技能面について課題がある。 ア	・制作に関するアドバイスを行う。 ア ・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 ア ・視聴覚教材を用いた授業を行う。 イ	・適宜 ・各単元の始め	
第２学年	・発想や構想面に課題がある。 ア イ ・基礎的な表現をベースにした、応用的な表現技法に課題がある。 ア イ ・個々の表現技能に差が見られ、作業が進まない生徒が目立つ。 ア イ	・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 ア ・タブレットを用いて、発想や構想を深める。 イ ・制作に関するアドバイスを行う。 ア	・各単元の始め。 ・適宜	
第３学年	・表現方法と技法を理解する事に課題がある。 ア イ ・個々の表現技能に差がみられ、作業が進まない生徒がいる。 ア イ	・見通しをもった制作ができるように、工程を示したプリントを準備、配布する。 ア ・タブレットを用いて、発想や構想を深める。 イ ・制作に関するアドバイスを行う。 ア	・各単元の始め。 ・適宜	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・課題の発想や構想の段階で、自分のイメージを具現化する事に活用したり、具体的に表現したい物を調べたりする為に活用する。（２、３年）

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

・作品のコンセプトを明確にして、自己の作品を振り返る。（１、２、３年）
・作品展の相互鑑賞により、発想や表現方法を学ぶ。（１、２、３年）

令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　保健体育

保健体育科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
健康・安全についての理解を深め、生涯にわたり健康を保持増進し、運動技能を習得させ、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。	主体的・協働的な学習活動を通して、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る方法を探求する力を育成する。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	ア運動を楽しむことができているが、運動の実践が記録や技能の向上につながっていない。イ運動することそのものが目的になっている場面が多く見られるので、課題の探求や到達目標を明確にすることが課題である。	ア学習カードやタブレット端末を用いて運動に必要な知識を習得し技能の向上につなげる。イペアワークを中心に互いに教え合う時間を作り、課題の発見や解決方法の探求につなげる。	通年を通してどの運動領域についても行っていく。	
第２学年	ア運動が苦手な生徒が、自ら段階的に課題を決めて練習することに消極的で、運動技能の習得に差が出ている。イグループ学習では意見を出し合うというより個々に努力する姿が見られた。助言や協力して課題に取り組む力を付けることが今後の課題である。	ア学習カードを活用して、計測値や計測回数などの目標をもたせ、自己の到達度を確認しながら次の目標に向けて学習を進めるようにする。イペアなど少人数のグループ活動から学習を展開し、互いに助言し合うなど対話的な学習の場面を増やす。	通年を通してどの運動領域についても行っていく。	
第３学年	ア積極的に取り組み、運動を楽しみながら技術を習得し体力の向上に成果を上げている。今後は部活動の引退などで運動量が減り、体力が低下しないように、積極的に運動を取り入れ継続させていく力を付けたい。イ運動が苦手と感じる生徒が減少し仲間と運動を楽しむための努力や工夫ができるようになった。	ア体力テストの結果から自己の体力を理解させ、目標を立てさせ、必要な運動を継続して行わせて体力の向上を図る。イ学習カードやタブレット端末を活用して自己の運動課題を見付け解決方法を探究する学習をグループで行い対話的で深い学びにしていく。	通年を通してどの運動領域についても行っていく。	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・最終的に到達すべき知識・技術をタブレット端末で調べる。
・グループ学習において、互いの技術を録画して比較、分析を行う。
・ダンスなど自分たちの成果を、タブレット端末を活用し録画し発表したり、他のグループの作品を鑑賞する。
・ロイロノートを活用し、各自の課題を提出させる。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

・学びの段階的手段や、考えるポイントを明確にした学習カード作成
・学習カードを使用したグループ学習の取組により、仲間と考え気付きを共有させ、互いに助言し合い、それを記録しながら学習を振り返らせることで「対話的で深い学び」に向かう力の育成を図る。

令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　技術・家庭

技術・家庭科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生活と結び付けることができる。	生活から課題を見付け、身に付けた知識を基に解決策を考え実践しようとしている。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	● 技能に対する理解と習得の差が大きく、個別な支援が必要な生徒がいる。ア ● 自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力に課題がある。イ ● 特に言語から具体物をイメージする力に課題がある。イ	● 実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにするア ● 生徒の実態に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。ア ● 自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ	● 毎時間ア ● 毎時間イ	
第２学年	● 身に付けた知識や技能と、生活との結び付きを理解することに課題がある。 ● 技能に対する理解と習得の差が大きく、個別な支援が必要な生徒がいる。ア ● 自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力に課題がある。イ ● 特に言語から具体物をイメージする力に課題がある。イ	● 生活から出る課題の中から知識を抽出し生活との結び付きを印象付ける。ア ● 実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにする。ア ● 生徒の実態に合わせて指導方法を工夫し、映像などを用いて理解を促す。ア ● 自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ	● 毎時間ア ● 毎時間イ	
第３学年	● 身に付けた知識や技能と、生活との結び付きを理解することに課題がある。ア ● 技能に対する理解と習得の差が大きく、個別な支援が必要な生徒がいる。ア ● 自ら考え課題へ取り組む創造力や工夫する力に課題がある。イ	● 生活から出る課題の中から知識を抽出し生活との結び付きを印象付ける。ア ● 実践的・体験的な活動を取り入れ、知識と技能が有機的に結び付くようにする。ア ● 自分の考えをまとめ、お互いに共有できる場を設ける。イ	● 毎時間ア ● 毎時間イ	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

１年　タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す。
２年　タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す。
３年　タブレット端末を使用して意見共有をし、考えの深化を促す。

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学び に向かう力」の育成に向けた取組について

１年　振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施
２年　振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施
３年　振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施

令和４年度　多摩市立落合中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　外国語（英語）

英語科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて	
ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等
・コミュニケーションの中で、基本的な語彙や文構造を活用する力や、自らの考えを相手に伝えるための「発信力」を養う。	・聞くことや読むことを通じて得た知識を、自らの体験や考えと結び付けながら活用する、「話す力」「書く力」を養う。

	生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（２月）
第１学年	英語学習に意欲的に取り組む生徒が増えている。家庭学習では自分で音声を確認するなど取り組んでいる。 間違いを恐れずに話したり、書いたりしようとする習慣はついているが、文構造の理解が十分ではなく、きちんと表現しきれない実態がある。 また、基礎的な理解力や英語力に自信が無い生徒がいる。	話し言葉と書き言葉の違いを意識できるよう、スピーチ原稿の形で文章を作成し、発表する機会を設定する。また、自分の考えを発表する場面を多く設けられるような授業展開を考える。 ア口頭、ICT、紙面にまとめての発表など、正確な表現で発表しきる機会を多く取り入れ、達成感を味わわせる。 イ英語を使って目標達成遂行できるようなタスクを与える。生徒は、コミュニケーションの目的・場面・状況で、課題を達成するための内容を考え、言葉を選んで判断して表現し、解決させる活動を行う。	単元終了毎のプリント添削、会話テスト、音読テスト実施時。 学校紹介（未定）	
第２学年	英語学習に関心はあり、授業内でも意欲的に取り組もうとしている。特に学習の目当てを明確にすると、いっそう意欲的になる。 話す力については、話し方のコツを習得しつつある状態であるが、いまだに書く力の育成につながっていない。語彙力はある程度ついているが、文構造の活用はまだ習慣づいていない。 一方、基礎的な理解力や分析力に課題がある生徒がいる。	話し言葉と書き言葉の違いを意識できるよう、スピーチ原稿の形で文章を作成し、発表する機会を設定する。また、自分の考えを発表する場面を多く設けられるような授業展開を考える。 ア「こんな場面でどう表現する？」について自ら調べ、解決させた状態で授業に臨ませる。また、ICT、紙面にまとめての発表など、正確な表現で発表しきる機会を多く取り入れる。 イ英語を使って目標達成遂行できるタスクを与える。また「未知語の推測」と「Describing Game」「Story Retelling」の授業を通し、コミュニケーションの目的・場面・状況で、課題を達成するための内容を考え、言葉を選んで判断して表現し、解決させる活動を行うことで語彙力や文構造の活用力を育成する。	単元終了毎のテスト及びプリント添削、会話テスト、音読テスト実施時。 「未知語の推測」等については、授業内での生徒の反応に対する直接指導	
第３学年	英語学習に関心をもち、授業だけでなく家庭学習にも意欲的に取り組む生徒が多い。英語が苦手な生徒も、QR コードやロイロノートを活用しながら、能力向上に取り組んでいる。一方で、表現したい意志はもっているものの表現方法がわからない生徒が多い。また、まとまった内容の話を一定時間内にできる生徒が育成しきれていない。	ペア活動、グループ活動を取り入れることで、不得意な生徒も仲間に支えられながら学習できるよう工夫する。 アどんな内容も、簡便な表現で表すことができることを、継続して指導する。生徒が表現したこと(筆記したものや録音したもの)を繰り返し添削し、定着を図る。 イ「Story Retelling」を通して、教科書の表現を活用しながらまとまった内容の話をする習慣を付け、定着を図る。	単元終了毎のプリント添削、会話テスト、音読テスト実施時。 show＆tell 実施（検討中）	

■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

・作成したスピーチや教科書の音読録音を提出させ、個別の指導及び全体へのフィードバックを行う。
・反転授業に向けた家庭学習の支援

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

１年　作文・感想文等の推敲作業及び下書きのファイリング
２年　徹底した「未知語の推測」のトレーニング
３年　自己評価カードでの本時のねらいの再確認および次時の予定について見通しをもった学習